



interview

「お邪魔します」⑦

七尾市府中町 三林内科・胃腸科医院

三林 裕先生の巻

先生は七尾生まれで、幼い頃から兄、三林弁護士と共に秀才兄弟として有名。金沢大医学部を卒業後、済生会病院に勤務していた時、望まれて公立能登総合病院へUターン。学会に数々の研究論文を発表し、病院では正確な診断と治療で、厚い信頼を寄せられ、今年七月開業された。

医師になられた動機は？

三林 中学時代から融通性のない人間だと自覚していたの

と、父が医師だったので、高校時代に決めました。

七尾へUターンされたのは——

三林 金沢に家を新築していたので、院長に声をかけられて迷いました。でも、金沢は病院も医師も充分ですし、医師一人当たりの社会的貢献度は七尾で働く方が高いと思ったのです。若いから出来た決断です。

価値ある人生を選択されたのだと思います。開業されたのは？

三林 二十代まで学生として学び、四十代までは医師として勉強しました。このまま定年を迎えるより、この節目に第三の人生を——と思ったのです。今はやりがいもあり「気分は青春」です。

待合い室は絵と花で飾られ、畳敷きの部分もあり、素敵な応接間の感じ。先生の第三の人生にかける気持ちが伝わってきますが、どんな医院にしたいとお考えですか？

三林 患者さんの相談相手になり、病気によっては専門病院を紹介するなど、病気の「交通整理」をするのと。同時に『この分野は三林先生』と言われる部分も維持したいです。

私の専門は消化器系の診断学で、正確な診断をし、消化器系にかぎらず患者さんに正しい指針を与えることです。偶然ですがこれは開業医に求められる条件でもあります。

趣味と家庭サービスは？

三林 釣りと絵を描くこと。元気で

学 術 講 演

主催：七尾市・鹿島郡医師会
後援：中外製薬株式会社

金沢大学医学部
第三内科教授

松田 保



「DIC(播種性血管内凝固)の診断と治療」

九月十八日(金)夜、七尾看護専門学校の金大第三内科松田保教授の「DICの診断と治療」についての講演がありました。

血管が破れた場合、その創口で血液が凝固するということは、生体にとってまことに好都合なことです。

真面目に働いてくれる亭主こそ、家庭サービスの基本。それでひたすら誠実に——です。(笑い)

自分を見つめ、考え、向上を図る先生は、患者の生命、人生をもきつと大切にして下さる方だと思った。

(エッセイスト 小林良子)

しかし重症疾病のとき血管損傷がないにもかかわらず、全身の血管の中で血液が固まりそして溶けるという、今度は生体にとってはなほだ迷惑な現象が繰り返して起こることがあります。この病態(DIC)の診断と治療についてお話し下さいました。

例えば私が医学生であった頃(三十年前)、第二内科村上元孝教授の臨床講義で、出血性素因を呈した患者さんが提示されました(原疾患は忘れました)。その止血療法として、「ヘパリンを使ってみたらどうかね？」松田君！と講義録を筆記中の松田先生に教授が下問されました。それが常識に反したことだったので今でも憶えています。

松田教授は講演が終わってから、「あまりクリアカット過ぎたかもしれませんが、分かりやすいお話でした。」

(文責 素谷 宏)